【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成18年6月22日(2006.6.22)

【公表番号】特表2006-504811(P2006-504811A)
【公表日】平成18年2月9日(2006.2.9)
【年通号数】公開・登録公報2006-006
【出願番号】特願2004-510859(P2004-510859)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｊ　5/18　(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　25/00　(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　27/40　(2006.01)
Ｃ０８Ｋ　3/34　(2006.01)
Ｃ０８Ｌ　75/04　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｊ　5/18　ＣＦＦ
Ｂ３２Ｂ　25/00
Ｂ３２Ｂ　27/40
Ｃ０８Ｋ　3/34
Ｃ０８Ｌ　75/04

【手続補正書】
【提出日】平成18年5月2日(2006.5.2)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
少なくとも１つの表面層を含む薄肉物品であって、前記表面層が、
ポリウレタンエラストマーと、
前記層の重量を基準にして約２０～４０重量パーセントのモレキュラーシーブであって、平均粒径が約１～１５ミクロンであり、モレキュラーシーブを基準にして１重量パーセント未満の粒径が約４０ミクロンを超えるモレキュラーシーブと
からなることを特徴とする薄肉物品。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２８】
（実施例３）
モレキュラーシーブの添加が機械的特性に及ぼす影響を明らかにするために、試料１で用いたものと同じポリウレタン／モレキュラーシーブ組成物から、ポリエステルフィルム上に試料２を成形し、乾燥させた。得られた２．８ミル（０．０７ｍｍ）厚のポリウレタンフィルムを、ポリエステルフィルムとともに適当なサイズに切断し、ポリウレタンフィルムをポリエステルフィルムから注意深く剥がし、ポリウレタンの特性をインストロン（Ｉｎｓｔｒｏｎ）（登録商標）引張試験機により測定した。比較試料１と同じポリウレタン溶液組成物から、比較試料６を成形し、試験用に同様の処理を施した。応力の結果は、

伸び率１００％において、試料２では１４４ｐｓｉ（０．９９メガパスカル）、比較試料６では２９１ｐｓｉ（２．００メガパスカル）であり、通常の装着時の伸びでは応力が有利に減少していることを示している。試料２は、また、有利なことに、伸び率が比較試料６（２７％）に比べて低い値（２２％）を示した。

なお、以下に本明細書に記載の発明の種々の態様につき列記する。

１．少なくとも１つの表面層を含む薄肉物品であって、前記表面層が、
ポリウレタンエラストマーと、
前記層の重量を基準にして約２０～４０重量パーセントのモレキュラーシーブであって、平均粒径が約１～１５ミクロンであり、モレキュラーシーブを基準にして１重量パーセント未満の粒径が約４０ミクロンを超えるモレキュラーシーブと
からなることを特徴とする薄肉物品。

２．　水蒸気透過速度が約５０ｇ／ｈｒ／ｍ^{2}未満であり、伸び率１００％における応力が約１．４メガパスカル以下であることを特徴とする前記１．に記載の薄肉物品。

３．　前記ポリウレタンは、ポリエステルグリコールと、ジイソシアネートと、ジアミン連鎖延長剤との反応生成物を含むことを特徴とする前記１．に記載の薄肉物品。

４．　前記モレキュラーシーブは物品の重量を基準にして約２５～３５重量パーセント存在することを特徴とする前記２．に記載の薄肉物品。

５．　計算した水蒸気透過速度が約２０ｇ／ｈｒ／ｍ^{2}未満であることを特徴とする前記１．に記載の薄肉物品。

６．　モレキュラーシーブを実質的に含まないポリウレタンエラストマーからなる第２の層をさらに含むことを特徴とする前記１．に記載の薄肉物品。

７．　モレキュラーシーブを含む前記層が前記物品の内側表面層であり、前記第２の層が前記物品の外側の層であることを特徴とする前記６．に記載の薄肉物品。

８．　伸び率（ｐｅｒｃｅｎｔ　ｓｅｔ）が、約２５％未満であることを特徴とする前記３．に記載の薄肉物品。